

文化・芸術



「阿蘇噴煙」

1950年ころ、パステル、紙
24・5センチ×33・8センチ

曾宮 一念 (1893～1994年)

今年生誕130年を己や大下藤次郎、丸山迎える曾宮一念(そみやいちねん)の展覧会が始まりました。

曾宮は、1994年101歳で亡くなりましたが、当館では翌年ご遺族から84点の遺作を寄贈いただきました。その中には曾宮18歳時の油彩画から、旅先のスケッチ、書や陶板が含まれており、長命であったこの画家の多彩な作品世界を見出すことができます。本展はこれらの作品を中心にご覧いただきます。

東京・日本橋に生まれ、少年期から三宅克

《名画の扉》

大川美術館企画展生誕130年記念
「曾宮一念展—空にけやきをゆるする風」から

戦中は静岡に疎開し、以後、富士宮市にアトリエを構え、終生この地を拠点に各地へと旅を続け描きました。本作は、曾宮いわく「火の山巡礼」が始められた頃の一点。60歳を目前にした頃から、しばしば阿蘇や桜島などの火山へ出かけた画家の熱量が、大地の生命力と重なって表出しているようです。

(小此木)